

■業務概要及び目的

福井大学医学部附属病院は、ヘリポートを備えた福井県の原子力災害拠点病院であり、大学病院としては全国でも稀な1次救急から3次救急までのすべての救急患者を受け入れる、北米型（ER型）救急体制による救急初期対応に軸足を置いた救急診療を取り入れた特定機能病院（高度先端医療を行う病院）として同県内で中心的な役割を担っている。

「高度被ばく医療支援センター」の指定を受けたことにより、平時における被ばく医療専門人材を育成するための研修及び原子力災害時の長期的かつ専門治療を要する被ばく傷病者の診療の実施が必要になった。

本計画は被ばく医療に対応できる医師、看護師、放射線技師等の医療従事者を育成するための研修施設の整備を行うものであり、原子力災害発生時には被ばく傷病者を受け入れる施設として有効活用できる「福井大学（松岡）高度被ばく医療施設」の構想計画を支援する業務である。

■敷地概要

住所	福井県吉田郡永平寺町松岡下合月23号3番地（松岡団地構内）
敷地面積	270,230㎡
地区地域	用途地域：第1種住居地域 防火指定：指定なし、法22条区域
建蔽率	70%
容積率	200%
日影規制	建築物高さ＞10m （4m、5h/3h）
その他規制	無し
接道	北側：10.00m（県道栃神谷・鳴鹿森田線） 東側：11.00m（県道中川松岡線）

■計画概要

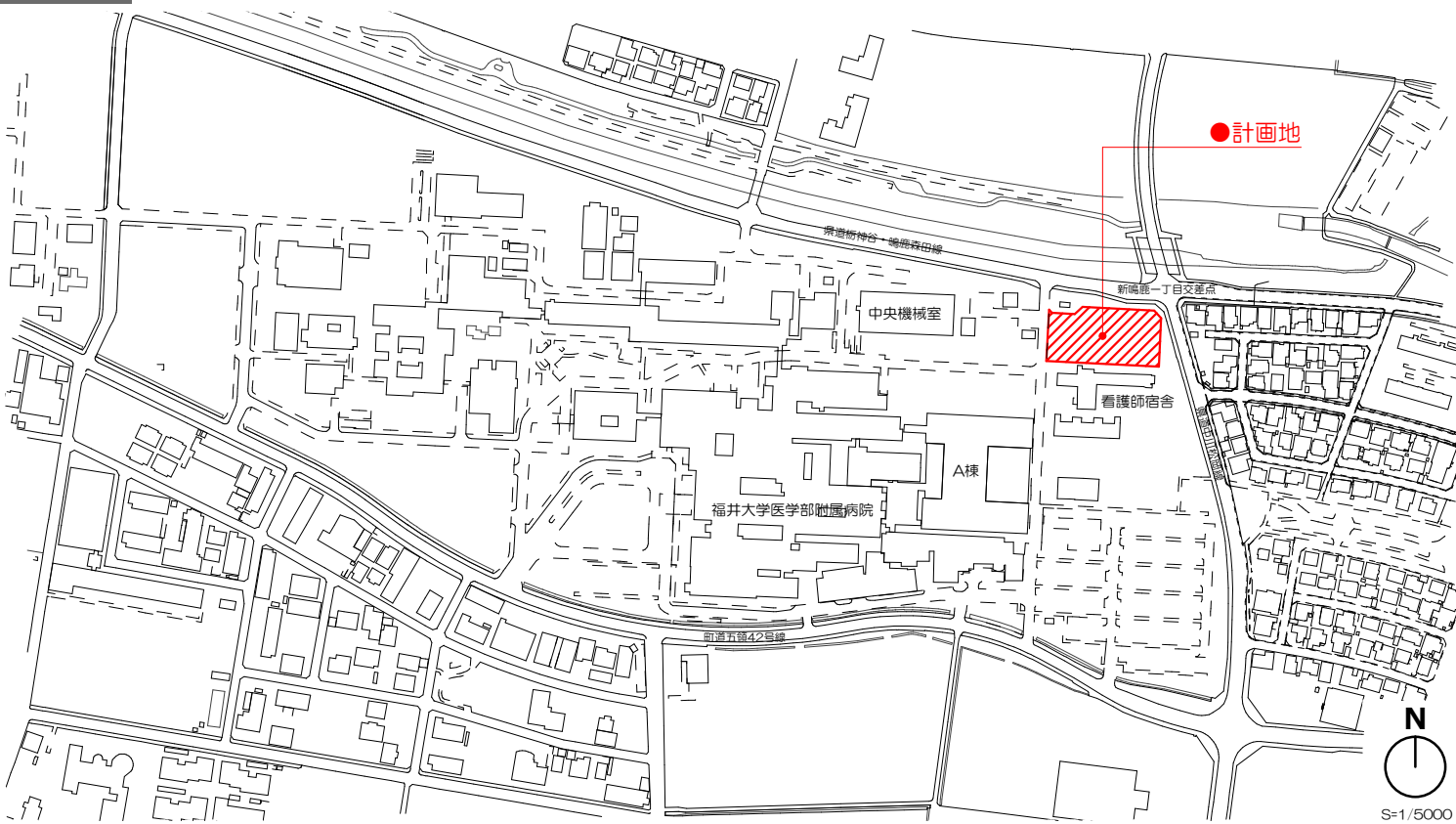
●整備内容	●高度被ばく医療支援施設
●階数	地上3階建
●建築面積	1,224.00㎡
●延床面積	2,039.46㎡
●主要用途	学校
●建物高さ	14.25m（建物の軒の高さ（RSL水上）） 17.00m（最高の高さ）
●階高	1階：4.40m、2階：4.35m、3階：5.55m
●主な室天井高さ	2.5m、2.7m、3.5m
●主要構造	鉄骨造

■地域特性・周辺環境

案内図



付近見取図



計画概要書 各室諸元表

■1 階

【トリアージ室】

- ・災害などの状況下において、治療の緊急性や症状の重症度から治療の優先順位を決定する室である。
- ・平常時は、原子力災害医療に対応できる医師、看護師、放射線技師等の医療従事者を養成するための研修及び訓練を行う室である。
- ・トリアージ室から除染室へ直接出入りを可能とするため、隣接した室配置とする。
- ・RI 管理室として、陰圧・陽圧制御が必要。（※機械設備概要書参照）
- ・面積 : 60 m²程度
- ・最大人員 : 20 名
- ・附属室 : 倉庫、汚物保管室、汚物排泄スペース
- ・設え : 自動ドア（人感センサー、フットスイッチ式）、ストレッチャーガード、手洗い

【除染室 1、2】

- ・放射性物質が付着した被ばく患者の衣類を脱がせて体（皮膚）の拭きとり、界面活性剤や油脂を使い拭き取りを行う室である。
- ・平常時は、原子力災害医療に対応できる医師、看護師、放射線技師等の医療従事者を養成するための研修及び訓練を行う室である。
- ・①トリアージ室②除染室③処置室の流れで、処置を行うため、トリアージ室、処置室と隣接した室配置とする。
- ・研修及び訓練時に室外から見学を可能とするため、通路・見学ホールに隣接した配置とする。災害時は、室内養生が必要となるため、見学窓の遮蔽カーテン等は室外側にて計画を行う。
- ・RI 管理室として、陰圧・陽圧制御が必要。（※機械設備概要書参照）
- ・面積 : 60 m²程度（各室）
- ・最大人員 : 20 名
- ・設え : 自動ドア（フットスイッチ式）、ストレッチャーガード、見学窓、手洗い

【処置室 1、2】

- ・被ばく患者の除染後に簡易処置を行う。また、検体（血液や皮膚など）を採取する室である。
- ・平常時は、原子力災害医療に対応できる医師、看護師、放射線技師等の医療従事者を養成するための研修及び訓練を行う室である。
- ・除染室から処置室へ直接出入りを可能とするため、隣接した室配置とする。
- ・研修及び訓練時に室外から見学を可能とするため、通路・見学ホールと隣接した配置とする。災害時は、室内養生が必要となるため見学窓の遮蔽カーテン等は室外側にて計画する。
- ・RI 管理室として、陰圧・陽圧制御が必要。（※機械設備概要書参照）
- ・面積 : 30 m²程度（各室）
- ・最大人員 : 20 名
- ・設え : 自動ドア（フットスイッチ式）、ストレッチャーガード、見学窓、手洗い

【検査室 1、2（2-1、2-2）】

- ・検体検査：処置室にて得られた被ばく患者の検査物または、試験物（平常事）の被ばくにおける血液中の物質測定、血液細胞の分類等、質量分析など成分分析や被ばく線量の有無等の検査を行う室である。
- ・解析・薬品：処置室にて得られた被ばく患者の検査物または、放射線試験物や試薬品（平常時）の染色体や、微生物の画像撮影、解析や線量評価する室である。
- ・面積 : 計 100 m²程度
- ・最大人員 : 検体検査 5 人、解析・薬品 5 人
- ・設え : 各種検査機器

【ホールボディカウンター室（WBC 室 1、WBC 室 2）】

- ・ホールボディカウンター（体内に取り込まれた放射性物質の量を体外から測定する装置）を置き、被ばく患者の放射性物質を測定する。立位式 1 台、臥位式 1 台及び甲状腺モニターを設置する室である。
- ・平常時は、原子力災害医療に対応できる医師、看護師、放射線技師等の医療従事者を養成するため、ホールボディカウンターの取扱い等を習得する研修及び訓練をする室である。
- ・研修及び訓練の性質上、立位式及び甲状腺モニターの設置室、臥位式の設置室を分けて計画を行う。
- ・臥位式ホールボディカウンターは、周囲を遮蔽壁にて区画が必要である。
遮蔽室主な仕様：床・天井 鉄材：200 mm、鉛内張：3 mm、内面：合成樹脂板
- ・ホールボディカウンター室前は、測定内容を説明する説明室を配置する。
- ・各ホールボディカウンター室は、上足での利用となるため、出入口部に上下足の履替えを計画する。
- ・RI 管理室として、陽圧制御が必要。又、除湿を行うものとする。（※機械設備概要書参照）
- ・面積 : 計 100 m²程度
- ・最大人員 : 計 20 名
- ・附属室 : 説明室、更衣室
- ・設え : 遮蔽室、自動ドア（人感センサー）

【受付スタッフ室】

- ・被ばく患者（軽度・重度）を県内外から受け付ける。災害時、対応医師等が活用し、上部組織との連絡等を行う。
- ・災害時は、トリアージ室との連携が求められるため隣接した室配置とする。
- ・面積 : 25 m²程度
- ・最大人員 : 5 名
- ・設え : 受付カウンター、手洗い

■2 階

【事務室】

- ・高度被ばく医療に携わる看護師、放射線技師及び事務職員の室である。
- ・災害時は、災害対策本部と連携を取る必要があるため、隣接した室配置とする。
- ・面積 : 90 m²程度
- ・最大人員 : 10 名
- ・設え : 給湯コーナー、ロッカー、OA フロア

【実習室(災害対策本部)】

- ・災害時に、原子力規制委員会、自治体などの緊急時支援を行う対策本部とする室である。
- ・事務室と連携を取る必要があるため、隣接した室配置とする。
- ・対策本部の規模拡大が必要な場合は、研修室 1、2 を合わせて活用可能とするため、研修室との間の壁は可動間仕切として計画する。
- ・面積 : 60 m²程度
- ・最大人員 : 20 名
- ・設え : 可動間仕切、統合原子力防災ネットワーク テレビ会議システム

【研修室 1、2】

- ・原子力災害拠点病院等の医師、看護師、放射線技師等の医療従事者及び協力関係機関等の職員に対し、放射線及び放射線影響に関する高度専門的な教育研修を行う室である。
- ・対策本部の規模拡大が必要な場合は、研修室 1、2 を合わせて活用可能とするため、研修室との間の壁は可動間仕切として計画する。
- ・面積 : 60 m²程度(各室)
- ・最大人員 : 20 名
- ・設え : 可動間仕切

【会議室 1、2】

- ・高度被ばく医療に携わる教員(医師)、看護師、放射線技師、事務職員の会議する室とする。
- ・有事の際は院外から派遣されてきた原子力災害医療派遣チームの控室とする。
- ・面積 : 40 m²程度(各室)
- ・最大人員 : 10 名
- ・設え : 可動間仕切

■3 階

【研修室】

- ・原子力災害拠点病院等の医師、看護師、放射線技師等の医療従事者及び協力関係機関等の職員に対して、放射線及び放射線被ばくに関する高度専門的な教育研修を行う室とする。
- ・面積 : 270 m²程度
- ・最大人員 : 140 名
- ・設え : 研修用モニター、プロジェクター、音響システム

【更衣室 1、2】

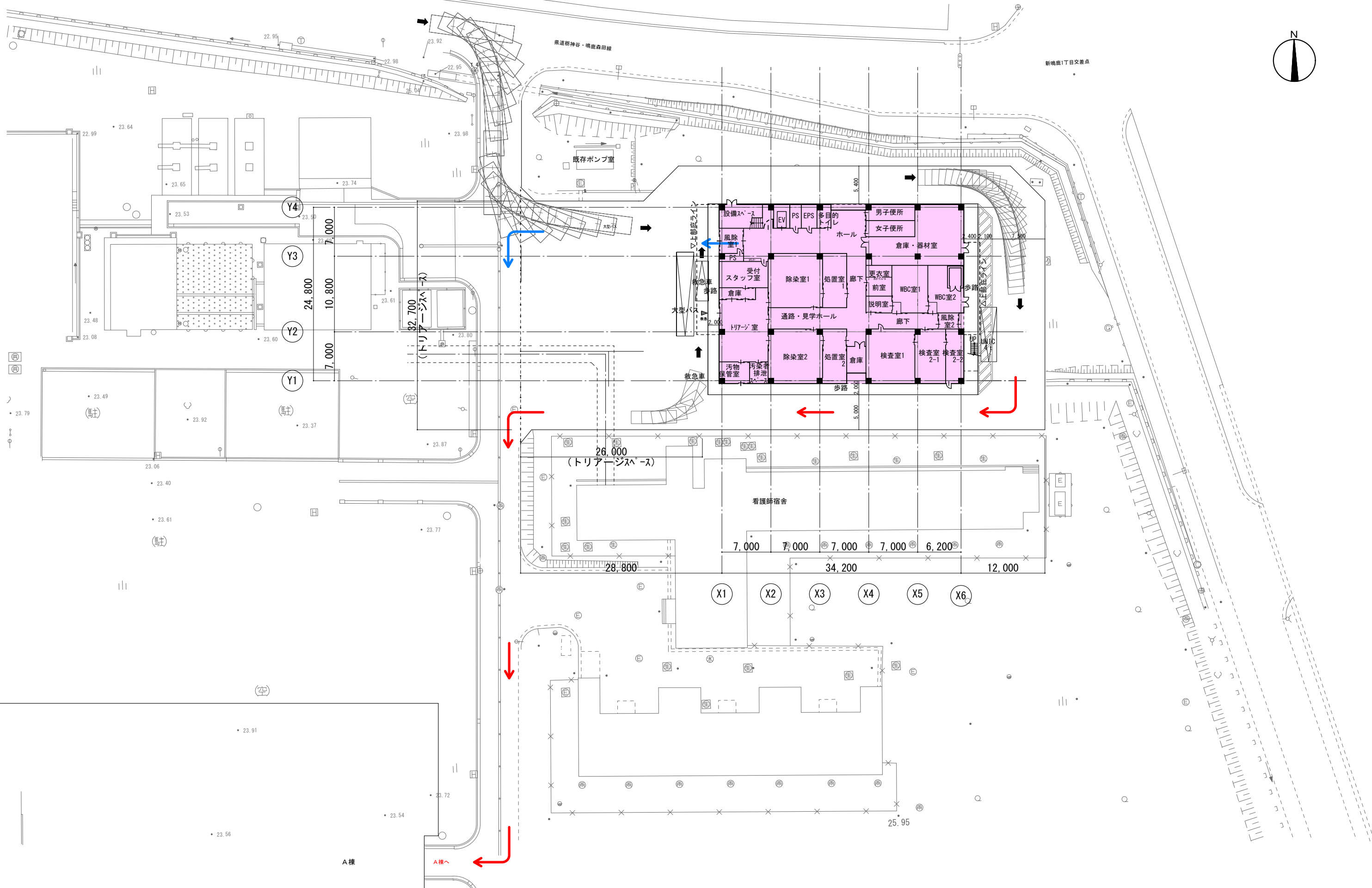
- ・主に研修・訓練者の利用とし、シャワーユニットを各 2 か所計画する。
- ・災害時は、医療従事者(D-MAT 等)の更衣室として活用を行う。
- ・面積 : 30 m²程度(各室)
- ・最大人員 : 20 名
- ・設え : シャワーユニット各 2 か所、ロッカー、カーテンレール

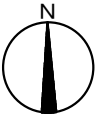
【会議室 3】

- ・高度被ばく医療に携わる教員(医師)、看護師、放射線技師、事務職員の会議する室とする。
- ・面積 : 20 m²程度
- ・最大人員 : 5 名

■その他

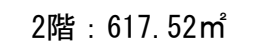
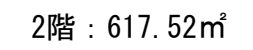
- ・倉庫・器材室: 各階配置とし、除湿を行うものとする。
- ・トイレ : 各階男子用と女子用を配置し、1 階のみ多目的トイレを計画する。
- ・EV : 人荷(車いす)対応とする。
- ・ホール : 各階配置とし、1 階は平常時に原子力災害医療研修を実施する医師、看護師、放射線技師等の医療従事者を養成(訓練)するためのエリアとする。

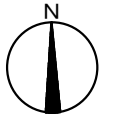




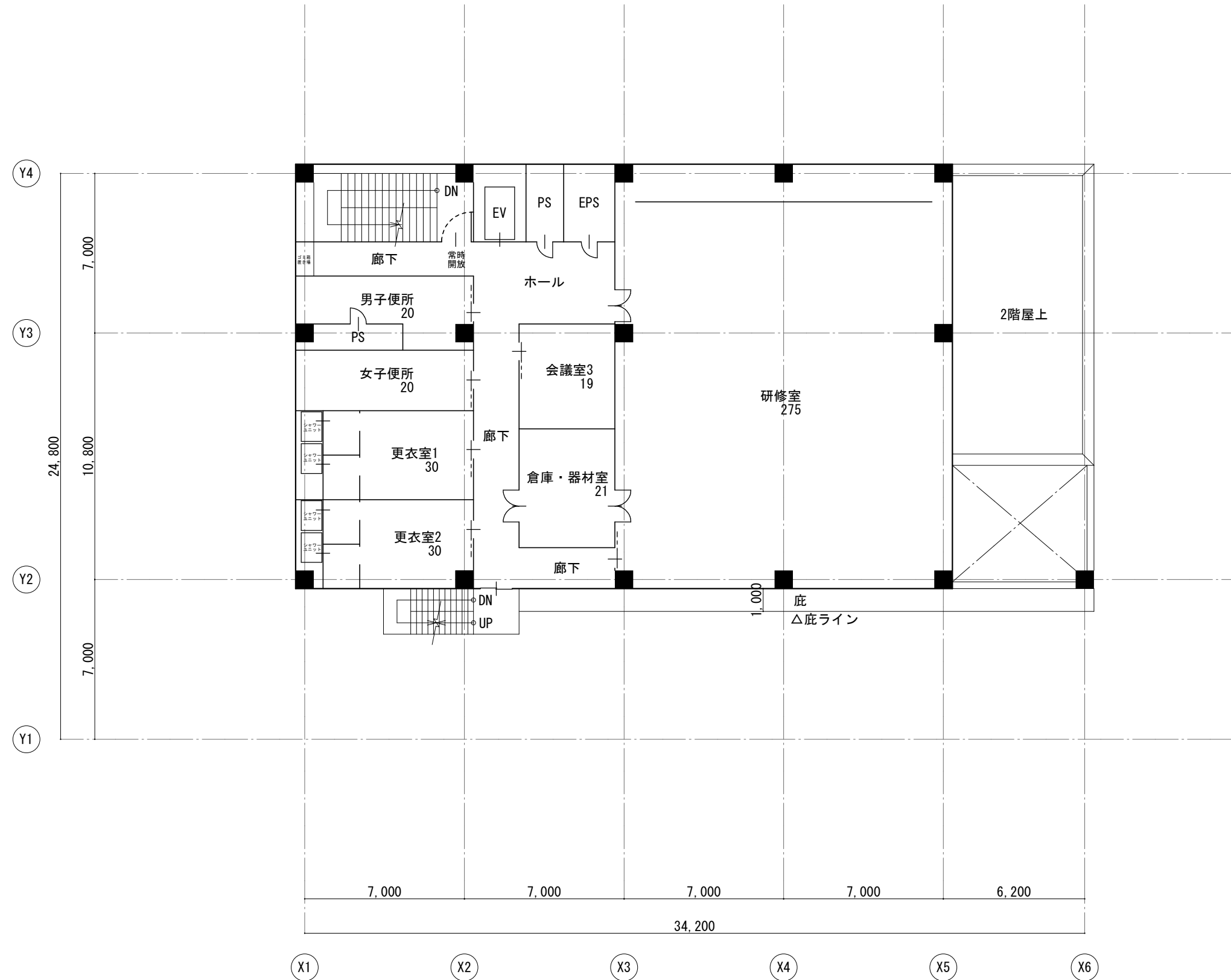
1階 : 886.26㎡

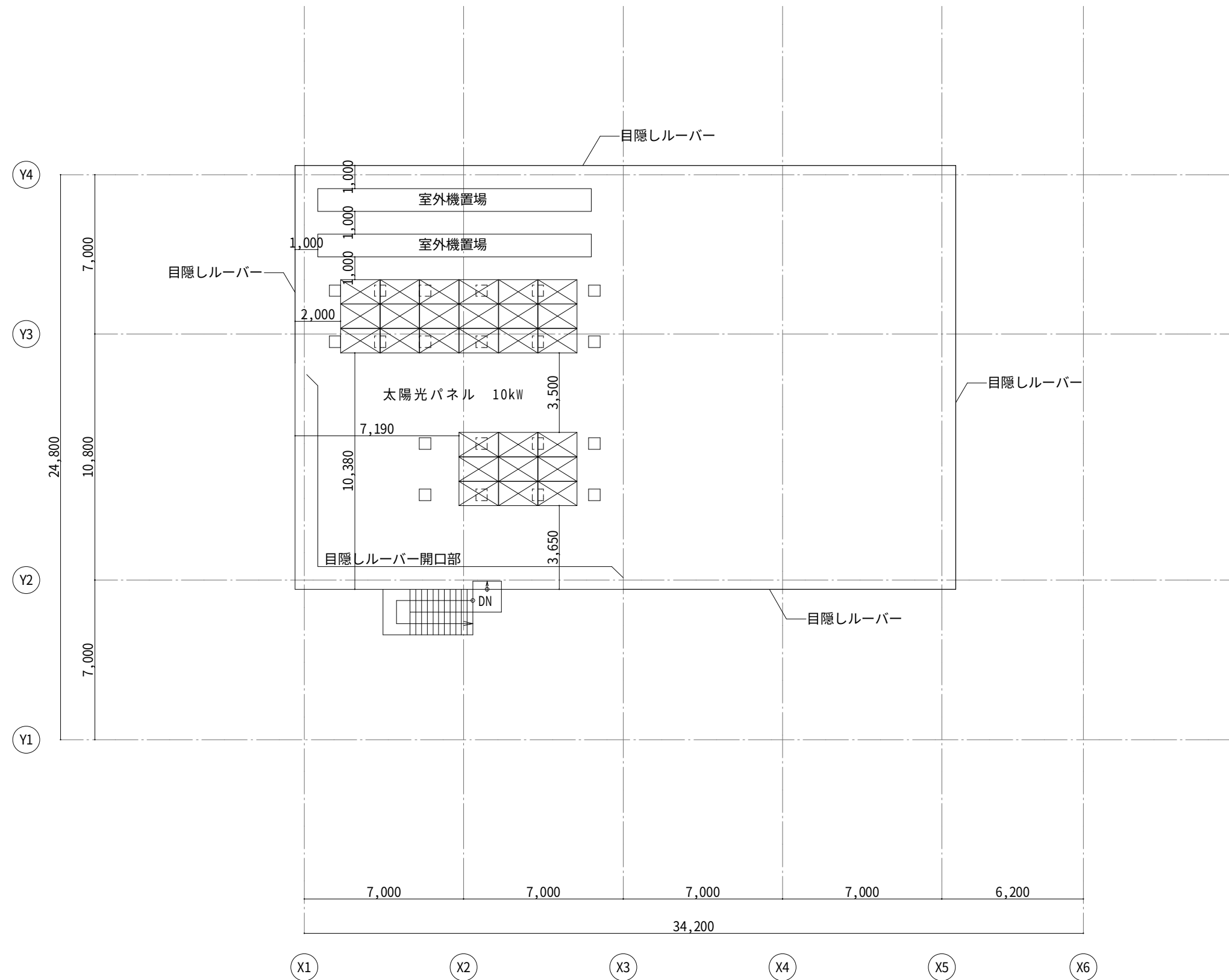
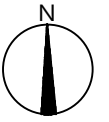




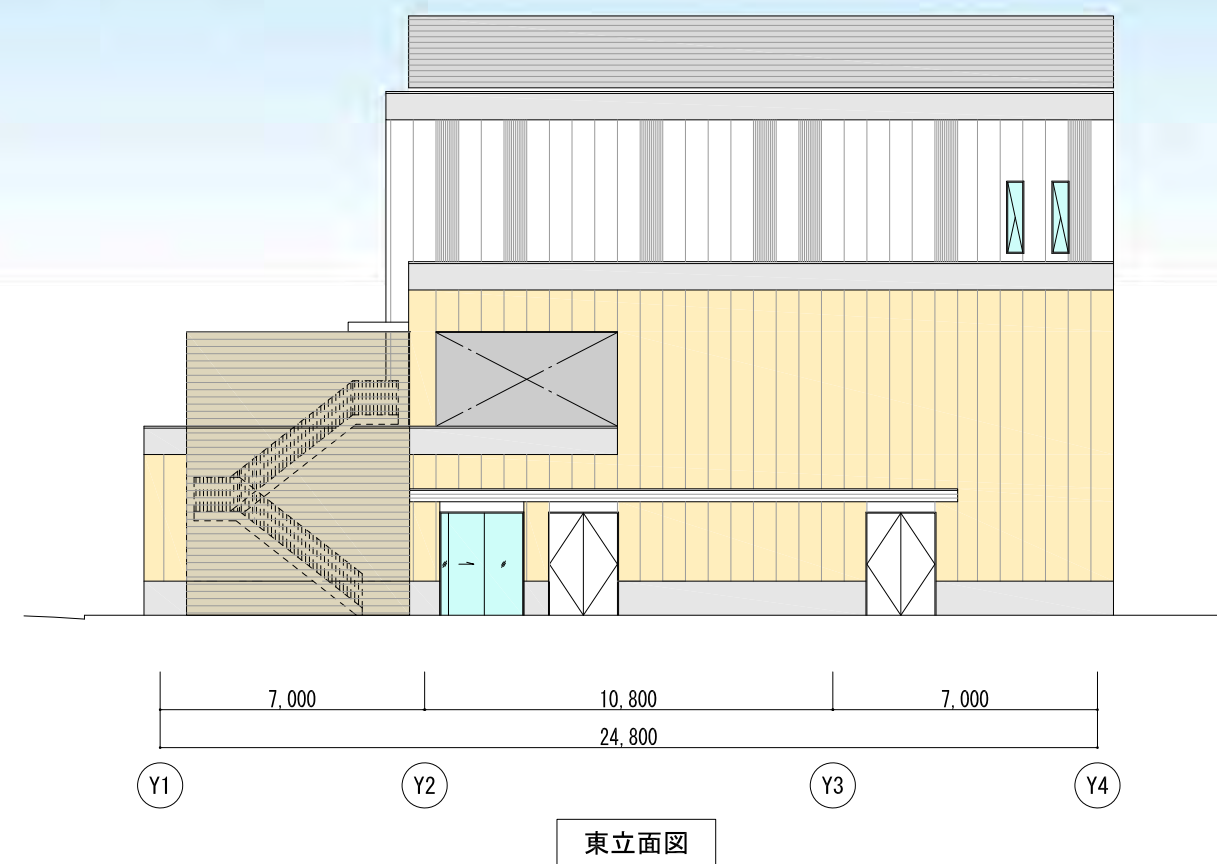
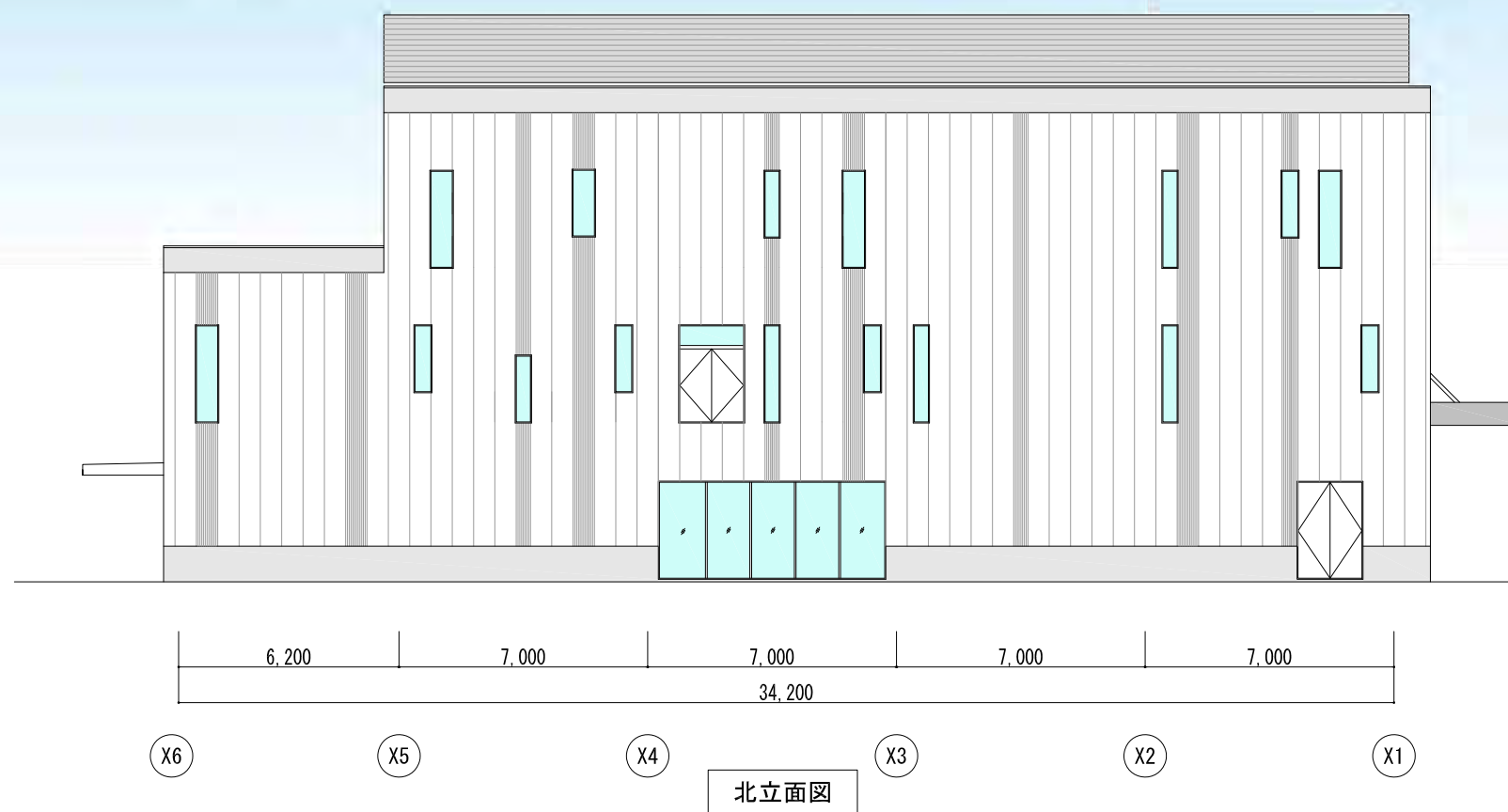
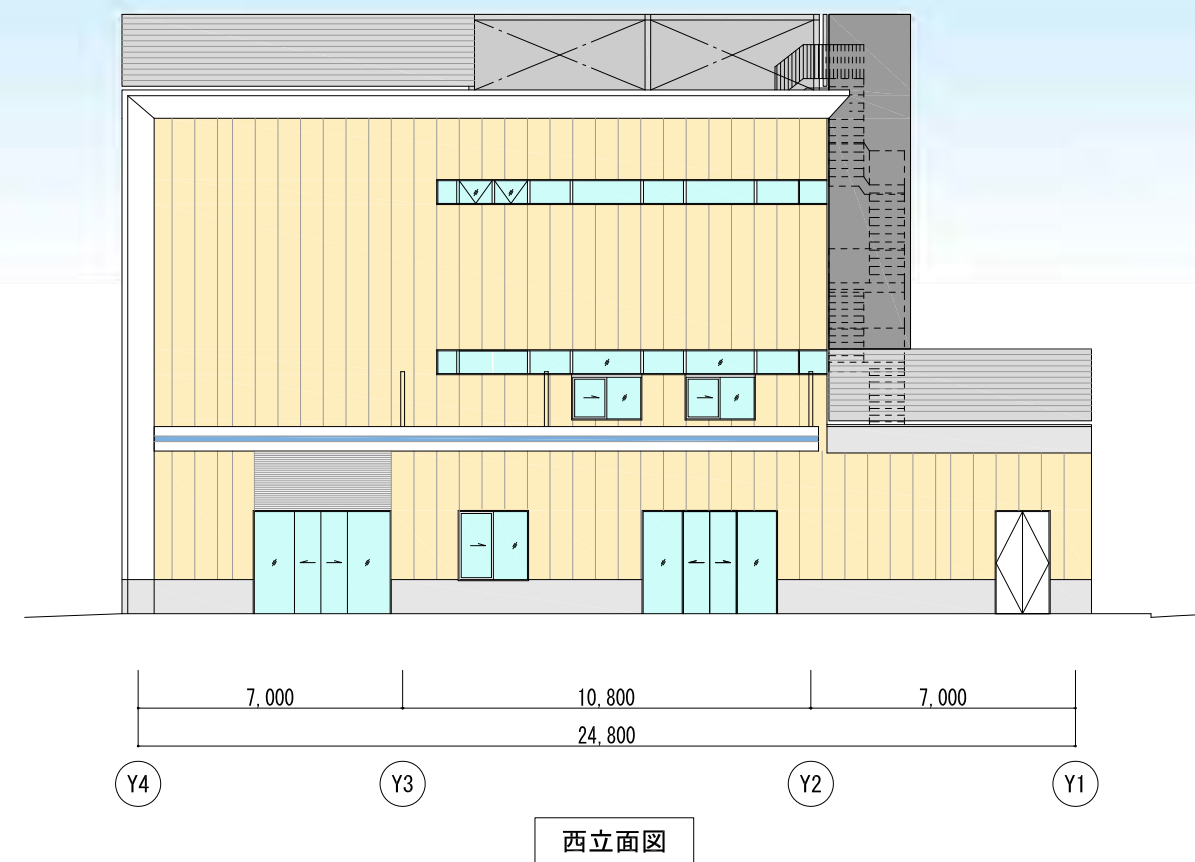
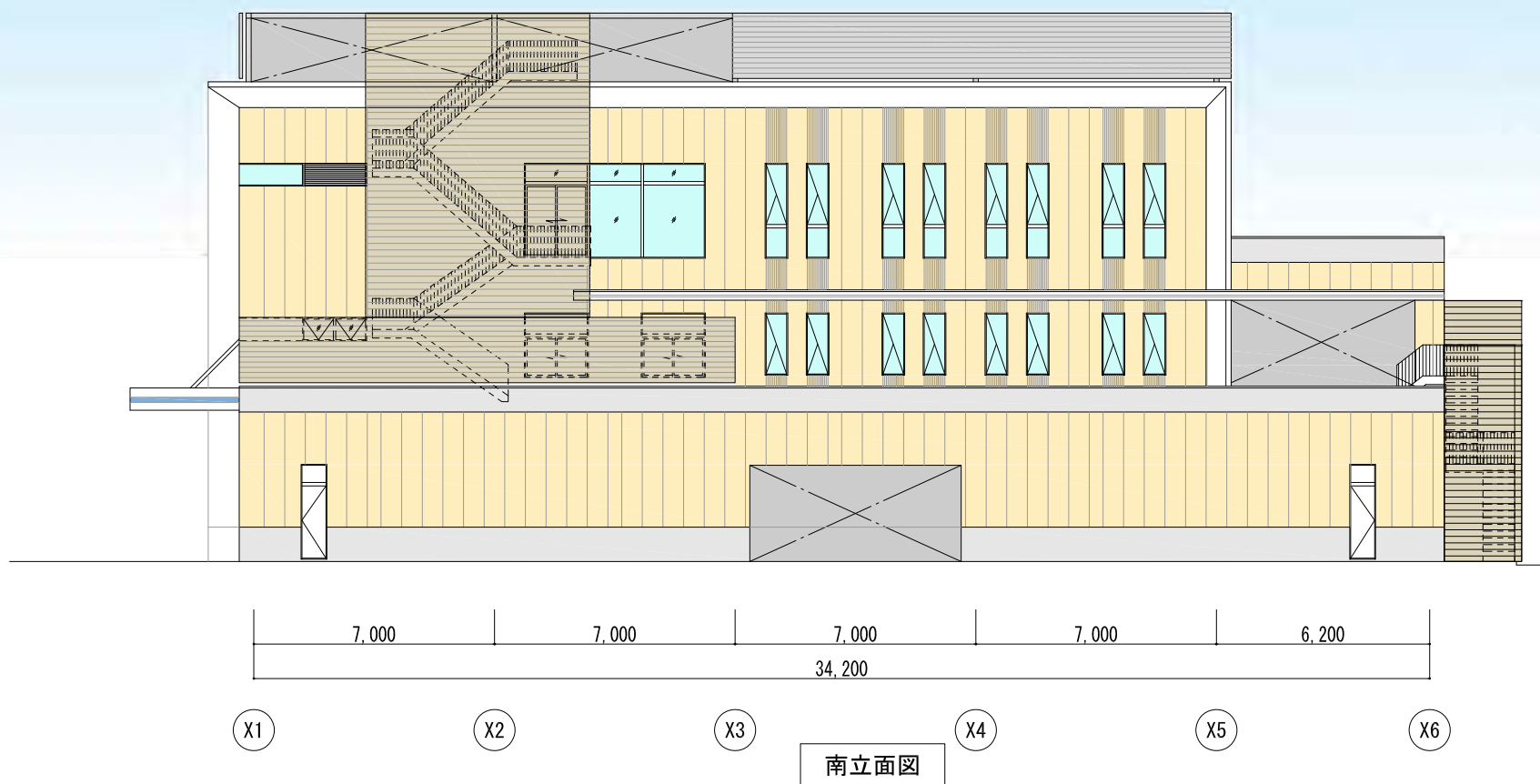


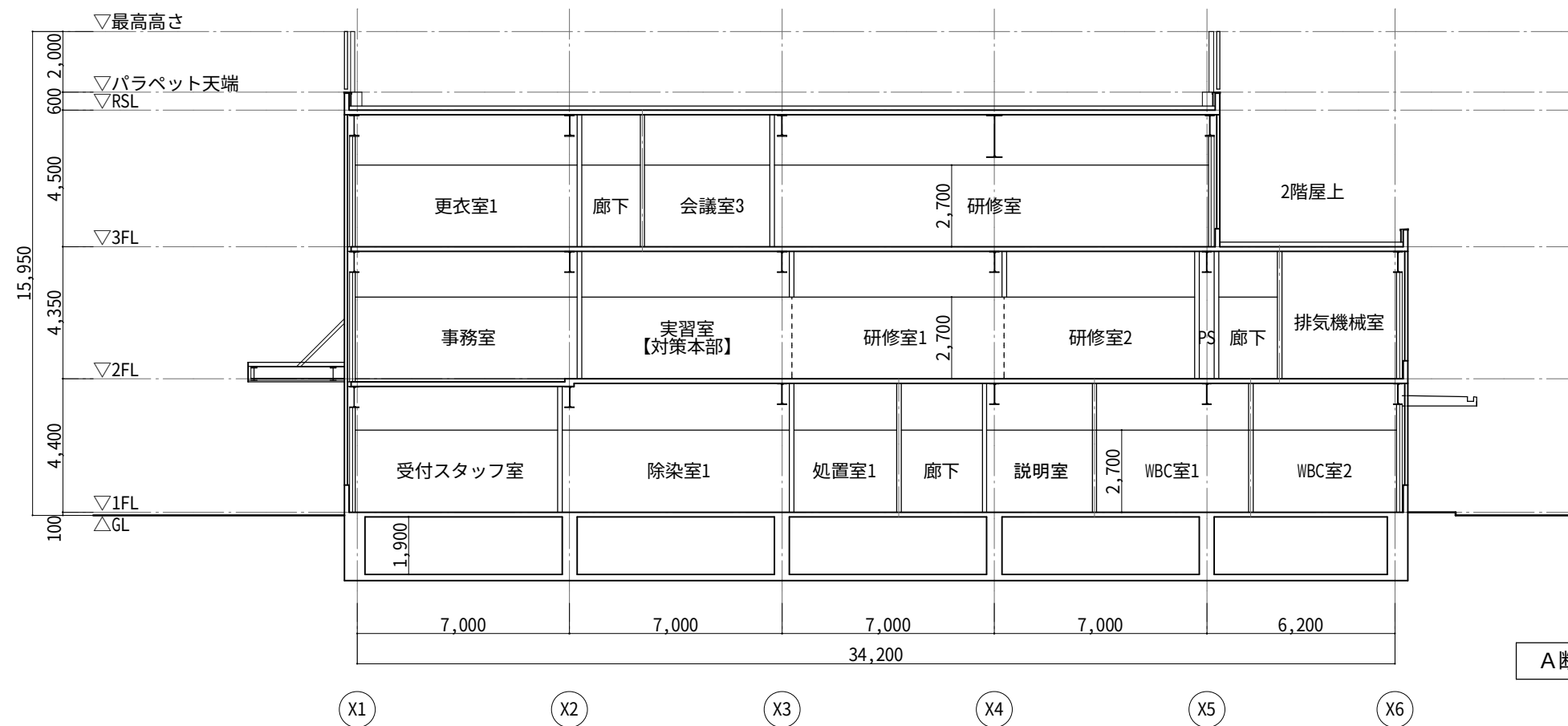
3階 : 535.68㎡



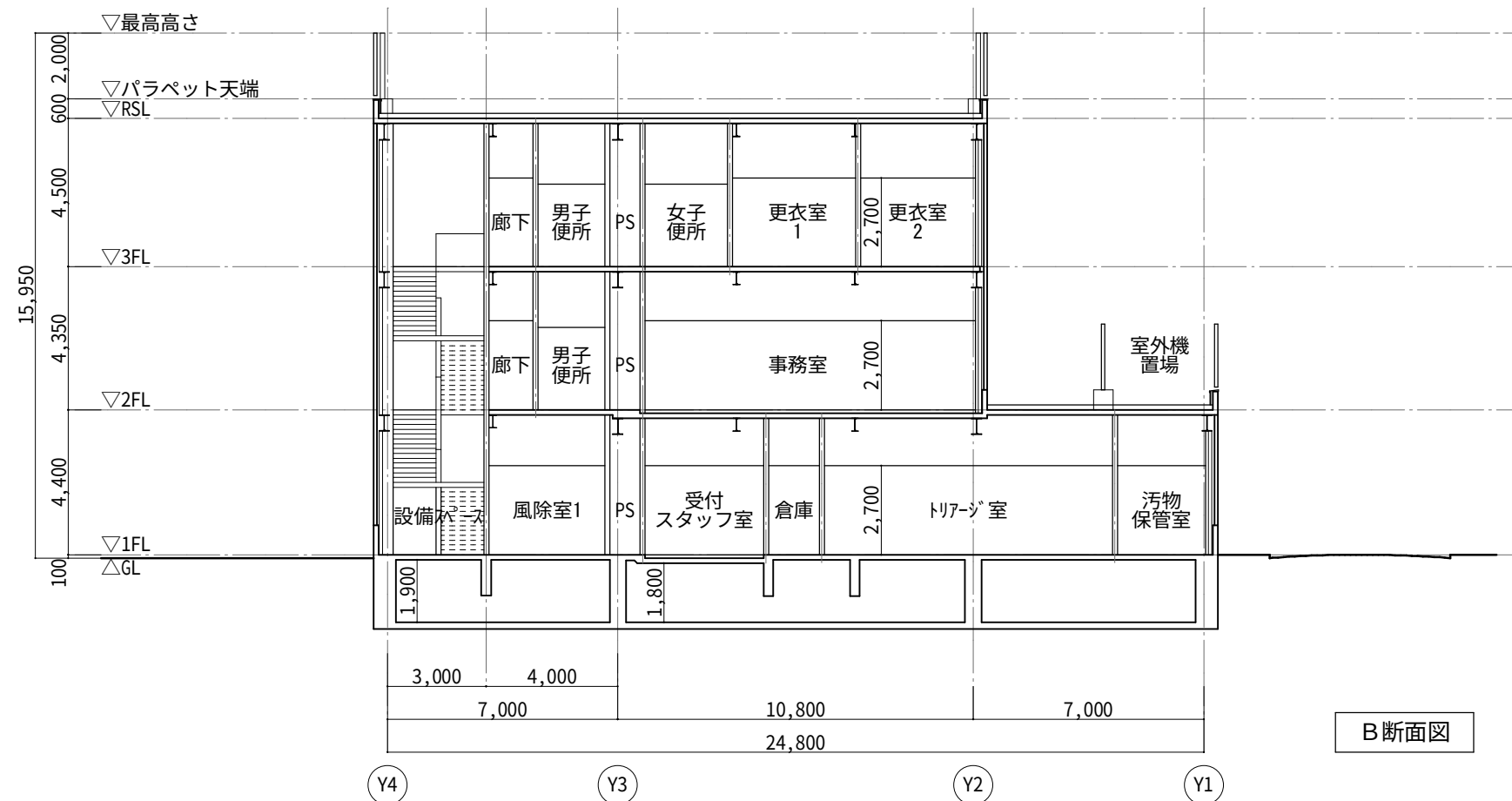
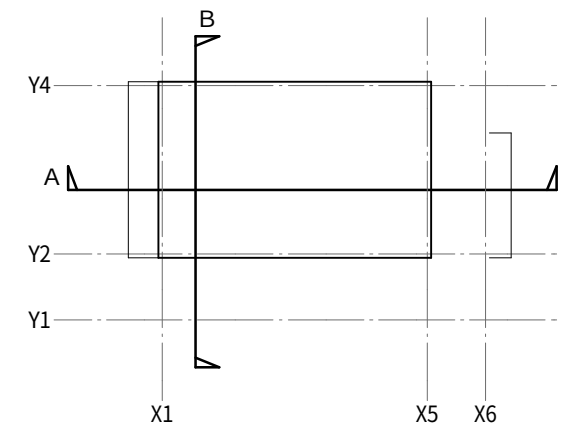


1階	886.26 m ²
2階	617.52 m ²
3階	535.68 m ²
屋上階	0.00 m ²
延べ床面積	2,039.46 m ²





A断面図



B断面図